

私のすすめるこの1冊

鈴木 英太（総合教育臨床センター 講師）

『インクルーシブ教育ハンドブック』

ラニ・フロリアン（編著）、倉石一郎・佐藤貴宣・渋谷亮・濱元伸彦・伊藤駿（監訳）

分厚い…、目立ちすぎる黄色いカバー…。この本は、厚さ6センチ全35章、834ページからなる黄色いレンガのような1冊である。けれども、いざ読み始めると、そこにあるのは「当たり前のように続けてきた教育」を根本から問い直す、きわめて切実な問い合わせに真正面から向き合ったものであった。読み始めて10秒後、すでに引き込まれている自分がいた。

たとえば本書は、「特別教育の政策的枠組みは、学校教育から零れ落ちかねない者への教育への権利を保障することを意図したものである。しかしそれが、逆説的に教育内部での不平等という問題を生み出している。」と指摘している。さらに、「ある生徒が同年代の仲間とは異なる、あるいはそれに付加的な何かを必要とすると分類されたとき、（中略）『全員』に届く教育プログラムの提供を、『一部』の子どもたちを異質なものとして有徴化しスティグマ化することなしに、どうやって行えるのか」と問いかけている。

…これは現状の日本における教育の課題そのものではないか！？と胸がざわつく。

というのも、ご存じのように日本では特別支援学級・特別支援学校に在籍する子どもの数が、近年急速に増加している。義務教育期にあたる学齢の統計（平成15年度～令和5年度の20年間）では、特別支援学校に在籍する子どもの人数は約5.2万人から約8.5万人へと1.6倍、特別支援学級に在籍する子どもの人数は約8.6万人から約37.3万人へと4倍以上に増加しているのである。子どもの総数が減っているにもかか

わらず、「特別な場」にいる子どもの人数が増えていく一本書の「教育内部での不平等」という問題が生じている状況なのである。

また、本書は「教師がもつ『ふつう』の子ども像」について鋭く問い合わせている。「大多数の学習者がうまくいくような教授法アプローチを考える思考から、（中略）すべての学習者が学習活動に参加できることが可能となるような教授アプローチへの転換」を求めていている。多くの子どもに「合う」授業をつくるのではなく、「みんなが違う」ことを前提に、全員が参加する学びを設計する。その視点の転換を、実践をベースとした研究を基に丁寧な理論で示している。

何回も言う。本書は分厚い。第1章を通読し、その後は気になる章からつまみ読みしていくことをおすすめする。おそらく今後、「インクルーシブ教育の黄色い本」といえば、「あの分厚い本ね。必読ですよね。」となるだろう。教員をめざす方はもちろん、学校現場の先生方、そして「インクルーシブ教育とは何か」を考えたいすべての方に手に取っていただきたい、いち押しの一冊である。

※本学の伊藤駿先生は監訳メンバーの一人です。また、著者のフロリアン氏は3月20日（土）に本学で開かれる学びサポート室国際シンポジウムに登壇されます。またとない機会です。是非ご参加ください。

みんな知ってる？図書館のサービス：Webサービス編 その1

図書館ではWeb上でもサービスを提供しています。

Webサービスとは、OPAC(蔵書検索システム)の利用者サービス機能を使って、インターネットで**利用状況の確認**や**各種申込**ができるサービスです。自宅などの学外からでも利用することができます。学内メールのアカウントとパスワードでログインしてご利用ください。

★Webサービスログイン方法

1. OPACの画面を開きます。

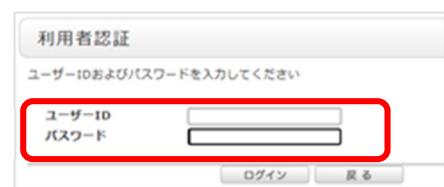
(図書館のトップページからは右にある
「蔵書検索」タブをクリックしてください)



2. OPAC画面の左にある「利用状況の確認」をクリックします。



3. 学内メールのアカウントとパスワードを入力してログインします。



日曜開館します！

試験期間前の2月1日、8日を開館(10:00～17:00)します。
試験勉強などにぜひ！



"Special Request Weeks"の選定本の展示をしています

2025年10月30日(木)～11月16日(日)に開催した

"Special Request Weeks"で購入した本です。

誰でも自由に借りられます。

【期間】2025年12月19日(金)～2026年2月10日(火)

【場所】1階渡り廊下



新着電子BOOKのポスターを展示しています

新規に購入した電子書籍のポスターを、「新着図書コーナー」の横で展示しています。

各ポスターの下側にあるQRコードは切り離し可能ですので、読みたい本／興味がある本があれば切り取ってお持ち帰りください。

なお、学外から電子書籍を利用する際は「学認でサインイン」を選択し、学内アカウントのID・パスワードを入力してください。



京都教育大学 それはかなう夢講座

「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。

第50回のお知らせ

YouTubeで2月中旬に公開予定

【講師】大島秀武

(体育学科 教授)

【テーマ】スポーツ科学を体育授業に活かす！

＜概要＞学校体育の中で、持久走・長距離走は「苦手」「きつい」と感じる人が多い種目です。持久走がつらく感じられる大きな理由の一つは、自分に合ったペースを知らないまま走ってしまうことです。みんなと同じ速さで走る必要はなく、自分の体の状態を知り、無理のないペースで走ることが重要です。ICT機器の活用が進んでおり、スマートウォッチなどのウェアラブル端末を使えば、心拍数や消費カロリーなどを簡単に確認できます。本講座ではスポーツ科学の考え方をもとに、ICT機器を活用して、自分で考えながら取り組む持久走の学び方をわかりやすく解説します。

主催：「現代的ニーズを踏まえた『理系』教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト委員会

後援：京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

※今までの回も
視聴できますので、
ぜひご覧ください！



学修相談センター：学修支援員が作成したパスファインダーを発行しました！

パスファインダーとは、テーマごとに、学修に役立つ資料や調べ方などをまとめた「探し方の道しるべ」です。

学修支援員が各自の得意分野でパスファインダーを作成しました！附属図書館にありますのでご自由にお持ち帰りください。HPでも公開しています。

学修相談センターでは、レポートや卒論などさまざまな相談を受け付けていますので、ぜひ気軽にお越しください！

【場所】北館2階ラーニング・コモンズ

Webフォームもあります。



時間が合わない、いきなり対面相談は緊張する…などの場合はフォームでの相談も受け付けています。



Web相談
フォーム

展示案内 <告知>

『さんぽみち』 小学校教科内容論音楽「記譜」課題作品展示

1月28日(水)～2月10日(火)まで南館2階にて

春季休業に伴う長期貸出について

学部生：1月28日(水)～4月2日(木)

院生・教職員：1月14日(水)～3月19日(木)

【返却期限日】4月17日(金)

児童書コーナー(南館1階)



今月の絵本カード(学生作)
『どうぞのいす』
作：香山 美子
絵：柿本幸造
出版社：ひさかたチャイルド



※児童書コーナーに
かわいいカードが
飾られています。
ぜひ見に来てください。

★好評開催中！ ※本学は連携参加大学です

第13回京都・大学ミュージアム連携 スタンプラリー

8月30日(土)～2026年3月16日(月)

★今年も開催！ 第9回ミュージアムロード スタンプラリー

1月21日(水)～3月15日(日)

★参加します！

パネル展「森羅万象の蔵～京都の大学ミュージアム」

2月3日(火)～2月15日(日)

会場：アートエリアB1(なにわ橋駅地下1階コンコース)

教育資料館 まなびの森ミュージアム

【2月の開館日時】

2日(月)、9日(月)、16日(月)、23日(月・祝) 14:00～17:00



今月の逸品(1～3月)

『須恵器平瓶（すえき へいへい）』
(6世紀 京都府与謝野町出土)

展示場所：附属図書館

教育資料館 まなびの森ミュージアム
<https://www.kykyo-u.ac.jp/museum/>

論のくちび理のむすび

今回の執筆者 香川 貴志 (社会科学科 教授)

自治体合併による小学校社会科副読本の変化(第1報) —京都府木津川市の場合—

香川 貴志

京都教育大学紀要 2025, No.147, pp.139-154
URI:<http://hdl.handle.net/20.500.12176/9960>



小学校時代の社会科学習の思い出として、多くの人びとの心に残っている書物を挙げられますか。それは『わたしたちの○○市』『わたしたちのまち○○』のような社会科副読本ではないかと私は考えています。小学校の第3学年と第4学年では、自分たちが通う学校のある自治体についての地域学習をします。ただ、教科書には馴染みの薄い事例地域が載っています。これでは児童も教師も面白くありません。そこで各々の自治体の教育委員会や先生方が知恵を絞り精魂を込めて地域学習のための教材を編集しています。それが社会科副読本なのです。

いわゆる「平成の大合併」を経て、多くの自治体で行政域が広くなりました。こうして「隣の町」だった場所が同じ自治体になるケースが増えました。京都府内で最南端の木津川市と府内最北端の京丹後市もその典型例です。自治体が統廃合されると副読本も編み替えられます。この時に記載事項の取捨選択が行われます。ここで合併の直前・直後の副読本の記載内容を比較すると、その地域が何を以て特徴づけられるのか、何を大切に思い、後世へ伝えたいと考えているのかがよくわかります。児童たちの地域認識はこうして醸成されていくのです。

ところで私が副読本を研究対象の一つにしているのは、それが自然的要素から人文的・社会的要素を広く扱う地誌学専門書の原初形態だと考えるからです。中学校や高等学校での地理は少なからず受験を視程に収めたものです。でも、小学校社会科の8割以上を占める地理領域の学習は、大学で研究されている地理学に相通する性格を帶びています。なぜなら小学校社会科と大学・大学院の地理学は、地図や統計を活用した調べ学習という同じ土俵にあるからです。もう一度副読本を読んでみたくなったのではないかでしょうか。この論文が載っている同じ号には、第2報として京丹後市の副読本も扱っています(pp.173-186.)。あわせてご笑覧いただけますと幸いです。

私は2026年3月末、35年間を過ごした本学とお別れします。そして、とても残念なことですが、本学から地理学研究室の灯が消えます。でも、私は論文などの著作を通じて学生の皆さんといつでも再会できます。地域から学ぶ地理学は、日常生活に密着した本当に楽しい学問です。Let's enjoy geography in your daily life!

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要147号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

開館日程 □9:00-20:00 ■9:00-17:00 ▲10:00-17:00
■9:00-21:00 ■休館(CLOSED)

2026年2月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

2/4-2/10 後期末試験

2/7 大学院入試

2/25-2/26 前期入試

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

2026年3月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

3/4 館内整理日

3/12 後期入試

3/25 卒業式

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>

(二次元コード→)



京教図書館 News No.305 (2026年2月号)

発行日:2026年2月2日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp